対面授業

中国語科教育法Ⅱ
Methodology of Teaching Chinese Ⅱ

NAGAE Takako
永江　貴子

科目ナンバリング：UTL-3-201-08

■授業の目的及び到達目標
本授業は、中国語科教育の理論および実践について理解し、教育実習で活用できる中国語科教員としての基礎的かつ実践的な能力を身に付けることを目的とします。模擬授業を中心とした実践的な学習を通して、「教える」という視点を明確にし、学習指導案を作成し、それを授業として遂行できるようになることを到達目標とします。

■授業計画
〔前期〕

1 高校の中国語教育の現状
高校における中国語教育の現状を概観します。高校での取り組みや ICT を用いた授業実践、アクティブラーニングの事例について紹介します。
2 学習指導要領と中国語教育
学習指導要領と中国語教育との関係を整理し、教授内容やその範囲について理解し、考察します。
3 発音指導（１）
中国語の発音指導法やピンイン指導における問題点について学びます。PC を用いた指導方法についても紹介します。
4 発音指導（２）
入門期における発音指導の考え方を整理し、実際の授業デザインについて検討します。
5 テキスト分析（１）
中国語の指導項目と学習項目について整理し、指導内容とその範囲について理解します。
6 テキスト分析（２）
教科書選択の基準について学び、市販されている中国語教科書の特徴を把握し、分析します。
7 指導法(１)
言語活動を導くための指導法や練習方法について学びます。ICT を用いた指導法やアクティブラーニングについても紹介します。
8 指導法(２)
教材の効果的な利用法について学びます。板書の仕方や PC の活用方法についても扱います。
9 文法事項(１)
初級段階で問題となりやすい文法事項について整理し、指導上の留意点を考察します。
10 文法事項(２)
中国語文法の基礎事項を整理し、実際の授業にどのように組み込むかを検討します。
11 指導案作成(１)
教材研究を行い、指導案の構成や文法事項を整理しながら、授業展開を考察します。
12 指導案作成(２)
指導案の具体例をもとに、指導案の書き方を学び、目標や学習段階を含めた全体像を整理します。
13 模擬授業の演習
作成した指導案に基づき、授業内で模擬授業を実施します。実施後は振り返りを行います。

〔後期〕

1 前期の振り返りと後期の内容紹介
前期の学習内容を振り返り、後期授業の概要を説明します。模擬授業の割り当てを行います。
2 発音指導・模擬授業
発音指導をテーマとした模擬授業を実施します。効果的な練習方法についても検討します。
3 中国語教授法と第二言語習得
中国語教授法および第二言語習得理論について学び、プレゼンテーションを通して理解を深めます。
4 中国語教員の役割と学習者論
中国語教員の役割や学習者論について、関連文献を読みながら理解します。
5 教案作成（１）
過去の教育実習生の教案を参考にしながら、教案作成の基本を学びます。
6 教案作成（２）
自身で教案を作成し、授業の展開方法や練習活動について検討します。
7 模擬授業（１）
作成した指導案に基づいて模擬授業を行い、終了後に振り返りを行います。
8 模擬授業（2）
引き続き模擬授業を実施し、授業内容や指導方法について振り返ります。
9 導入と展開について（１）
授業における導入の工夫や練習活動の展開方法について学びます。
10 導入と展開について（２）
さまざまな導入方法や授業展開の工夫について、具体例を通して理解します。
11 中国語の辞書
中国語学習辞典を比較し、辞書の役割や望ましい学習辞典について考察します。
12 テスト
中国語のテスト問題を作成し、評価方法について学びます。各種中国語検定試験についても理解します。
13 評価法
テストと関連づけながら、中国語科における評価法について考察し、評価の意義を理解します。

■授業の方法
プリント教材を中心に授業計画に沿って講義および演習を行います。必要に応じて ICT 機器を活用し、受講者の積極的な参加を促します。授業内での作業や課題、模擬授業を多く取り入れ、教育実習において中国語を適切に指導できるよう、実践的な訓練を行います。

■予習・復習
予習として、各授業項目に関連する教科書や配付資料を読み、内容を整理してから授業に臨みます（約 1 時間）。模擬授業前には、作成した教案について事前に確認を受けた上で準備を行います。復習では、各授業で学んだ内容を整理し、模擬授業で指摘された点について必ず改善を行います（約 1 時間）。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）
発表の完成度や質疑応答への対応 20%、議論への積極性 10%、レポート 50%、模擬授業 20%とする。なお、課題や模擬授業へのフィードバックは授業内や Blackboard で行う。

■教科書・参考書
教科書：
『高等学校学習指導要領解説　外国語編・英語編』（文部科学省）
『中国語の教え方・学び方―中国語科教育法概説』（輿水優著）
『why？にこたえるはじめての中国語の文法書』（相原茂・石田知子・戸沼市子著／同学社）

■関連する科目
中国語に関する全科目が関連する。特に 1 年次の「総合中国語」や「資格中国語」の修得を強く推奨する。